

今週（4月24日から4月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が350兆円半ばと高水準で推移する中、無担保コールO/N物は軟調に推移した。

無担保コールO/N物は14日の年金定時払い以降、地銀業態を中心に資金余剰色が強まっていることに加え、5月の連休前後の資金動向が読み辛いことから、調達サイドは慎重姿勢を強めていった。これを反映して、先週は4兆円台後半～5兆円程度あった無担保コールO/N物の出来高は3兆円台まで減少し、無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.07%台での推移となった。加重平均レートが▲0.07%台となるのは、昨年4月25日につけた▲0.075%以来1年ぶり。ターム物は足元のレート低下を受け、運用サイドでは地銀業態を中心に運用目線が切り下がる展開となった。主に1W～1Mの期間で地銀業態の調達と証券業態のロール案件を中心に出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは27日に2W物で8,000億円がオファーされ、結果は2,550億円と札割れとなり、期落ち額2,650億円を若干下回った。

日銀金融政策決定会合は26～27日の日程で開催され、金融政策の現状維持が決定された。

●レボ市場

今週のO/N GCは、月末初物の取引を除いて概ね▲0.105～▲0.09%のレンジでの取引となった。新積み期入り以降、投資家の資金調達ニーズが弱く、週を通してレート低位で推移した。24日のS/N(4/26-27)は▲0.100～▲0.095%の出会い。25日のS/N(4/27-28)は資金調達サイドが薄く、▲0.105～▲0.100%の出会いと低下した。26日のS/N(4/28-5/1)は▲0.150～▲0.110%の出会い。月末初にあたり資金調達を控える先が多く、玉確保による買いが先行しレートは大きく低下した。しかし27日のT/N段階では強い買いは一服し、▲0.095～▲0.090%の出会いまでレートを上げた。27日のS/N(5/1-2)は▲0.095～▲0.085%の出会い。月末要因剥落と短国3M物の発行要因から資金調達ニーズが増加し、レートは上昇した。28日のS/N(5/2-8)は▲0.105～▲0.095%の出会い、連休の6日物となり資金調達サイドが慎重でレートは低下した。

SC個別銘柄では5y121,126,130、10y336～345、30y50～53などの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、慎重姿勢が強まる中、全般的に動意に乏しいマーケットとなった。

新発の入札は、26日に3M物が実施された。WI取引で▲0.15～▲0.145%の出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1475%、按分落札利回▲0.1383%の順調な結果となった。その後のセカンダリーでは▲0.145～▲0.136%での出会いと、小甘い展開となった。

短国買入オペは28日に5,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.001%、按分落札利回較差▲0.006%の落ち着いた水準での決着となった。

28日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「5月末の残高を29～31兆円程度とすることをめどとしつつ、金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表された。4月末の日本銀行の国庫短期証券買入残高（金融機関からの買入残高）は31兆6,641億円と見込まれ、その内5月中に償還を迎えるものは5兆5,735億円であることから、5月に実施される短国買入オペは合計3～5兆円程度と予想される。

●CP市場

今週のCP市場は、大型連休を控えた月末週となったことで、ノンバンク・鉄鋼・商社等の様々な業態が大型発行を実施し、8,300億円程度の償還総額に対して、1兆7,000億円弱の発行が見られるなど、活況なマーケットとなった。発行レートに関しては、発行残高の積み上がりや鈍いことや金融法人の資金余剰感、最近のCP等買入オペの動向等を反映し、引き続きa-1格相当銘柄で0%から浅めのマイナス圏での決着が中心となるなど、目立った変動は見られなかった。

CP等買入オペは、25日に前回と同様の3,500億円でオファーされた。結果は平均落札レート▲0.012%、按分落札レート▲0.019%と前回比（平均▲0.009%、按分▲0.029%）で平均が低下、按分は上昇という結果になった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/24（月）	18,875.88	0.020	110.04	△ 0.070	△ 0.094	3,536,500
4/25（火）	19,079.33	0.015	109.92	△ 0.074	△ 0.097	3,553,600
4/26（水）	19,289.43	0.016	111.35	△ 0.074	△ 0.100	3,565,900
4/27（木）	19,251.87	0.015	111.30	△ 0.075	△ 0.097	3,554,200
4/28（金）	19,196.74	0.010	111.25	△ 0.074	△ 0.092	3,565,100

来週・再来週（5月1日から5月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/1 (月)		TB3M 44,000億円 5/8発行			3月の米個人所得・消費支出 4月のISM 製造業景況指数 EURO祝日(Labour Day) London祝日(May Day)
5/2 (火)	アジア開発銀行研究所・ベンシルバニア大学共催グローバル・シンクタンク・サミットにて黒田総裁講演 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 金融政策決定会合議事要旨(3月15,16日分 8:50) 4月のマネタリーベース(日銀 8:50)	流動性供給 2,000億円 5/9発行			米FOMC(1日目)
5/3 (水)	憲法記念日				米FOMC(2日目) 4月のISM 非製造業景況指数 1-3月期のユーロ圏GDP1次速報
5/4 (木)	みどりの日				3月の米貿易収支 3月の米製造業新規受注・出荷・在庫
5/5 (金)	こどもの日				4月の米雇用統計 3月の米消費者信用残高
5/8 (月)	5月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 4月の消費動向調査(内閣府 14:00)				4月のFRB 労働市場情勢指数
5/9 (火)	3月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	10Y 23,000億円 5/11発行	交付税借入 10,500億円 5/17借入		3月の米卸売売上高
5/10 (水)	決定会合における主な意見(4月26,27日分 8:50) 4月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 3月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 29,000億円 5/12発行			4月の米財政収支
5/11 (木)	4月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 3月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	TB3M 44,000億円 5/15発行	30Y 8,000億円 5/15発行	エネルギー 対策借入 6,000億円(見込) 5/22借入	4月の米生産者物価指数 英中銀MPC結果発表
5/12 (金)	4月のマネーストック(日銀 8:50)				4月の米消費者物価指数 4月の米小売売上高 3月の米企業在庫 5月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/1 (月)	▲ 2,300	▲ 9,300	▲ 11,600	全店共通 CP買入 国債補充	▲ 2,700 ▲ 300 2,400	2,600	2,000	▲ 9,600	TB3M発行▲44000償還42700
5/2 (火)	▲ 2,000	▲ 7,000	▲ 9,000	短国買入		5,000	5,000	▲ 4,000	税・保険料揚げの前倒し 交付税借入▲10500期日10500
5/3 (水)									
5/4 (木)									
5/5 (金)									
週間合計	▲ 4,300	▲ 16,300	▲ 20,600	—	▲ 600	7,600	7,000	▲ 13,600	
5/8 (月)	6,000	▲ 39,000	▲ 33,000	全店共通	▲ 1,500		▲ 1,500	▲ 34,500	税・保険料揚げ TB3M発行▲44000償還29700
5/9 (火)	7,000	1,000	8,000				0	8,000	流動性供給▲2000
5/10 (水)	6,000	0	6,000				0	6,000	
5/11 (木)	3,000	▲ 20,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	10Y発行▲23000 交付税借入▲10500期日10500
5/12 (金)	2,000	▲ 17,000	▲ 15,000	CP買入		3,000	3,000	▲ 12,000	源泉所得税 社会保障の払い TB6M発行▲29000期日15500
週間合計	24,000	▲ 75,000	▲ 51,000	—	▲ 1,500	3,000	1,500	▲ 49,500	

5/1は日銀予想、5/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、連休前の2日までは様子見姿勢が継続し、閑散な地合いが予想される。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き弱含みで推移すると考えられる。連休明けの8日以降は調整の取りが復活し、若干レートが上昇すると予想する。短国市場は、1日に3M物、10日に6M物、11日に3M物の入札が予定されている。短国買入オペのオファー額から推察すると、今月も日銀買入の残高減少が見込まれる。入札にどのような影響を与えるか注目したい。CP市場は、発行レートは引き続き0%付近になると考えられる。大型連休の谷間にあたる1・2日は、発行案件の少ない閑散なマーケットとなるが、8日以降は徐々に発行が活発化してくると予想される。CP等買入オペは9日のオファー（買入日12日）が予定されている。

主要なイベントとしては3日のユーロ圏GDP1次速報、5日の4月の米雇用統計などが挙げられる。米政府機関が閉鎖された場合は、5日の米雇用統計は延期される見込み。海外中銀の動向としては、2～3日にFOMC、11日に英MPC結果発表がある。また、7日にはフランス大統領選挙の決選投票が行われる。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。